

平成 30 年度 学校評価報告書（実施結果）全日制の課程

神奈川県立神奈川総合産業高等学校

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月29日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①探求活動、体験活動、研究活動の充実をはかり、生徒一人ひとりが個性を生かして主体的な科目選択ができる系と分野のシステムを構築する。 ②創造力、推進力、発信力の育成と学習習慣の確立を目指し、生徒一人ひとりが積極的に自己を伸ばさせるための学習支援を目指す。	①生徒一人ひとりの個性を生かし、創造的な活動ができる人材を育成する。	①実験、実習、演習等とおして、各系、分野の専門教育を充実させる。また、プレゼンテーション力の向上を目指し、発表会等に積極的に参加させる。	①各系、分野の専門教育を生かし、プレゼンテーションができたか。	○理科および専門科目を中心に実験・実習を実施し、科学技術教育を行った。外国語および社会科を中心に国際教育を行った。また、留学生等を積極的に受け入れた。 ○2回の生徒研究発表会を実施し、口頭発表およびポスター発表を行い、プレゼンテーション力を向上させた。 ○年間をおとして、研究授業、授業評価、校内研修会等、組織的な授業改善に取り組んだ。 ○2回の生徒授業評価アンケートを実施し、授業改善を検証するための資料とした。 ○100分授業を活かした実験、実習、演習等とおして、専門教育を充実させた。	○科学技術における探究活動教育の柱である「課題研究Ⅰ」の2年次生必修化が定着し、授業展開や教材研究等の内容充実を全職員で図り、言語活動の充実とプレゼンテーション能力の充実を目指した取組を行ったが、「課題研究Ⅱ」の履修につなげることができなかった。その原因を検証した上で指導を継続していきたい。 ○引き続き、組織的な授業改善に向け、校内研修等を実施する。 ○授業評価および研究授業等とおして、教科で統一した取組(補習等)を行い、学習支援をしていきたい。	・「課題研究Ⅰ」からⅡに繋がらない理由の側面に、進学率の上昇があるのであれば、工夫改善の余地があるように感じる。 ・この学校の目玉は、理系文系問わず「課題研究」であると思っているが、続けていただきたい。これから専門職大学が増えてくるので、「課題研究」はニーズにあっていると考える。 ・生徒研究発表会のレベルは上がっているが、パワーポイントの台本やPCを見ながらではなく、発表の内容を覚えて会場に向けて本格的な発表会を目指すときがきたのではないかと。発表指導にも力を入れてほしい。	・「課題研究Ⅰ」の2年次生全員必修化を実施した結果生徒全体のプレゼンテーション能力については向上が見られた。 ・「課題研究Ⅰ」から「課題研究Ⅱ」に多くの生徒を履修につなげるため、「課題研究Ⅰ」の2年次生全員必修化を取りやめた。 ・セメスター制(半期単位認定)により、選択科目について生徒の履修登録の可能性が広がった。 ・100分授業を活かした組織的な授業改善により、生徒が主体的に学ぶ場を展開したが、一人ひとりの生徒が学習成果をさらに発信できるよう支援することが課題である。	・「課題研究Ⅰ」から「課題研究Ⅱ」に多くの生徒を履修につなげるため、「課題研究Ⅰ」の2年次生全員必修化を取りやめ、意欲的に「課題研究Ⅰ」に取り組みたい生徒に絞るようにする。 ・プレゼンテーションを行う際に原稿を見ないでできるよう発表指導をする。 ・セメスター制について、そのメリット、デメリットを検証し、生徒の多様なニーズに応じた履修が可能となるよう環境を整備する。 ・生徒の学習の深化と学力向上を図るため、100分授業を活かした組織的な授業改善を継続して進める。
2 生徒指導 ・支援	①一人ひとりの生徒理解に基づく生徒指導や教育相談体制を充実させ、安心して安全に希望をもって学べる学校づくりを進める。	①生徒が主体となり、個性に応じた高校生活を送り、安心して安全、明るく活力のある学校をつくる。	①生徒会活動の活性化と充実を図る。 ②年次会を核とした情報交換を徹底し、相談体制とケース会議、いじめ対策を充実させる。 ③関係グループと連携し、挨拶の励行や規範意識の向上を図る。	①生徒会活動の取組み状況と成果は十分であったか。 ②年次会の報告やケース会議、いじめ対策会議を通して適切に生徒の状況を把握し支援できたか。 ③通学時も含めた学校生活が安全で安心であるか。	①生徒会執行部、委員会とも積極的な活動を行うことができ、自主的に活動する姿も見受けられた。 ②毎週の年次会、必要に応じたケース会議、いじめ対策会議では情報と対策の共有を十分に図ることができ、生徒、保護者への対応も的確に行うことができた。 ③生徒活動グループを中心に校内、校外での対応を行うことができた。自転車通学の安全指導を講習や点検で行ったが、事故件数は削減できなかった。	①より全校生徒が積極的にかかわることができる雰囲気作りが求められる。 ②人間関係で悩む生徒が多いため、HR、授業などでの生徒の状況把握、情報共有をしっかりと行い、対応していくことが必要である。 ③生徒の規範意識の向上に向けた全校的な取組が今後の課題である。	・交通安全指導について、自転車乗車時にサポーターズではヘルメットの着用の啓発を進めている。通学時にヘルメットの着用を義務付けた高校もあり、さらなる取組が必要なのではないか。 ・大学では不正行為のほとんどがスマホによるものである。規範意識の醸成が急務となっている。	①生徒が主体となって行事に取り組めるよう支援することができた。部活動の活性化が今後の課題と思われる。 ②生徒指導、支援において、年次会、ケース会議、いじめ対策会議等を通じて年次、関係グループと情報交換し、連携して対応することができた。 ③交通安全、SNSの使い方は特に注意を呼びかけ、生徒の意識向上につなげることができた。	①行事については生徒の新しい発想を取り入れるなど、既存のものにとらわれない行事運営に取り組む。 ②健康相談グループと連携し、生徒の様々な相談、問題に対応できる組織作りを行う。 ③自転車事故0に向けて取り組む。 携帯電話・スマートフォンの使い方を含めた学校生活における規範意識の向上に向けた呼びかけを検討する。
3 進路指導 ・支援	①社会で生きるために必要な知識や能力を身につけるとともに、個々の進路希望を実現させるための支援とキャリア教育の推進を行う。	①キャリア教育及び進路相談の体制の充実と生徒の主体的な進路選択を支援する。	①キャリア教育実践プログラムに基づいた進路指導の実施とインターンシップを実施する。 ②年間の進路指導計画に基づくガイダンスを計画的に行うとともに、個々の生徒に対する相談・指導体制を整える。	①年間の進路指導計画に基づくガイダンスを計画的に実施できたか。 ②生徒の進路希望の実現ができたか。	○各年次3~4回の進路ガイダンスを計画通り実施した。 ○インターンシップ参加者(18名) ○就職・専門学校・指定校大学短大希望者については、おおむね生徒の希望通りの結果を得られた。	○AO・推薦で安易に進路決定しようとする生徒が増加している。いかに一般入試にチャレンジさせるかが大きな課題である。 ○一般入試に対応できる基礎学力の充実が必要である。	・一般受験の数を増やすにはもっと大学を見学する機会を増やしてみようか。青山学院大学には、高校から20~30人単位で1年生が見学に来ている。高校に講師を呼ぶ方法もあるが、実際にキャンパスを見ることで、意識が変わることもある。	・キャリア教育実践プログラムに基づく年間進路指導計画を計画的に実施することができた。 ・生徒の進路実現を支援するために、1・2年次ではスタディーサポート、3年次では実力判定テストを実施した。	・年間進路指導計画を適宜見直し、生徒の進路実現を支援できる方策を検討する。 ・大学入学共通テストについて対策を検討する。 ・英語の四技能試験の対応を検討する。
4 地域等との 協働	①積極的なボランティア活動を展開し、地域の小中学校や自治会など近隣地域との連携を深め、地域に根ざした教育活動を推進する。	①地域及び他校間との連携を強化し、開かれた学校とする。 ②コミュニティ・スクール(CS)指定校として特色ある教育活動を推進する。	①地域の小学校と連携し、科学技術体験教室を4校で実施する。 ②ホームページ等を活用した学校広報活動を推進する。 ③地域に根ざした交通安全啓発活動等の取組みを推進する。	①体験教室の規模や満足度は向上しているか。 ②学校情報の発信は十分行っていたか。 ③地域や外部との連携、活動状況やその成果は十分なものであったか。	①小学校との連携として、科学技術体験教室を2校実施した。 ②ホームページが県の書式によりリニューアルされる。現在新しいホームページを移行作成処理中である。 ③サポーターズ、地域と連携し交通安全デーを実施した。	①授業時間の確保との兼ね合いもあるが、実施に向け年間計画を調整し、2校で実施したい。 ②新しいホームページ運用に向け多くの職員が係ることができるように校内体制を整備する。 ③自転車保険の加入についてサポーターズと連携し検討する。	・地域との協働が徐々にではあるが進化しているのではないかと。 ・今後は防災関係で連絡等とれる機会があればよいと考えている。 ・CSについてはこれから色々な動きが見えてくると思う。特に部会の活性化と評価部会のあり方がポイントとなるのではないかと。	①学校周辺の環境整備は、継続的に行った。 ②新しい学校ホームページ開設に向けた取組を行い、4月中に公開することができた。	①交通安全について地域、外部と連携し取組を推進する。 ②防災について地域と連携した取組を推進する。
5 学校管理 学校運営	①事故不祥事の未然防止を徹底するとともに、教職員の実践的指導力の向上を目指す。 ③生徒の防災意識を高め、防災教育の推進をはかる。	②防災教育の充実により、生徒・保護者及び学校間の連携を図り、防災意識を定着させる。	②生徒・保護者に対して、災害時の行動について啓発できるような安全対策指導を実施する。	②防災教育として、行事や大規模災害発生時を想定した3者の対応を確認できたか。	③新たな取組として、災害時対応カードを設定し、3者間で確認をした。災害時の対応を意識させ、有事の際にどのように対応させるかを確認することが出来た。	④年度ごとの災害時対応の見直しが考えられるので、新年度では、うまく対応できるように調査していきたい。防災意識の定着を目標できるように取り組む。	・防災意識を近年高めなければならぬ中で、共助のほうも教えて欲しい。 ・訓練で指揮をとる先生だけでなく、どの先生も災害時に指揮をとることができるようにしていきたい。	・防災カードから、3者間での確認を取ることができた。 ・電源喪失時の職員対応等行えれば、どの職員でも災害時対応ができると思う。	・災害のタイプによって、対応方法が違うので、それらを職員ハンドブック等で記載できるよう考えていく。